学 位 論 文 内 容 の 要 旨

		要　　旨
学位申請者	平山　紫帆 【比較社会文化学専攻　平成28年度生】	本研究は、非母語話者とのコミュニケーションにおける母語話者の調整方法の１つである「くり返し」に注目し、その調整の仕方を明らかにすることを目的とした。そのために、接触場面と母語場面の母語話者のくり返しを分析し、非母語話者との日常的な接触経験の多寡によって日本語レベルが異なる相手へのくり返しに違いが見られるかを探った。 本研究は４つの研究で構成される。研究１では、相手発話のくり返しの現れ方として「生起数」「出現形式」「出現位置」「自発性」に注目した。研究２では、相手発話のくり返しの機能として「くり返しそのものの機能」と「談話展開上の機能」に着目した。研究３では、自己発話のくり返しの現れ方を明らかにするために、「くり返しの生起数」「出現形式」「出現位置」「自発性」について分析した。研究 4 では、自己発話のくり返しの機能に注目し、「くり返しそのものの機能」と「談話展開上の機能」を分析した。 その結果、経験の多い母語話者は相手の日本語レベルによってくり返しを使い分け、日本語レベルの低い中級学習者に対してくり返しを頻用し、くり返しであることが明白な形式を使用し、情報を明確にしたり一体感を促進したりするくり返しを多用していたが、経験の少ない母語話者は相手からの明らかな反応要求のある場合以外は相手に応じた使い分けをほとんど見せないことが明らかになった。 この結果をコミュニケーション・アコモデーション理論を用いて認知的・心理的な違いから、母語話者のくり返しには接触経験の多寡や相手の日本語レベルによる違いが生まれていると分析した。
論文題目	接触場面と母語場面における母語話者のくり返しに関する研究　―日常的な接触経験と対話者の日本語レベルの観点から―	
審査委員	（主査）　教授　　佐々木　泰子	
	准助教　西川　朋美	
	准教授　山腰　京子	
	准教授　小松　祐子	
	助教　　本林　響子	